

# 名家連ニュース

令和2年6月19日(金)  
発行：特定非営利活動法人  
名古屋市精神障害者家族会連合会  
会長 堀田 明  
TEL/FAX(052)846-5576 NO.727号

## 精神疾患の理解と対応 2 第1回(6月16日)

### 当事者・家族・専門職が共に学び、共に創る「コ・プロダクション」を実現するために

本間さんによる連続講座その2がようやくスタートしました。総合社会福祉会館7階大会議室で新型コロナウイルス対策のために間隔をあけた配置で、48名が参加しました。以下に、その概要を記します。

#### 既存システム

どうして本人抜きで話し合うのでしょうか？本人の行動を悪いことと決めつけて問題を解決しようとしているからです。本人は、どうせ言われることが分かっているからと、話してくれなくなります。一つの意見と矛盾する別の意見が対立したときに、どちらか一方を潰すのではなくて、別の新しい方法を見つける(弁証法)ために、根気強く対話を続けていくことが凄く大事です。医師、親、本人の全ての言い分を満たす解決法を見いだす努力をすべきだと思います。従来のように、専門家といわれる人の意見に従って周りが言うことを聞いていくというやり方は、もう古い時代になりつつあります。(図1)



図1 既存システム

#### 「コ・プロダクション(共同創造)」とは

サービス生産過程で、自発的な専門家と利用者の協働がサービスの量や質にポジティブな効果を与えるという概念です。(図2)

#### コ・プロダクションは既存システムを変革する可能性あり

本人、家族、専門家が対等に話し合っ問題解決するやり方が、今後必要となっていくと思いますし、おそらく既存のシステムを変革する上にも、とても有効な力になっていくと思います。

#### コ・プロダクションには、対話・語りが必要

本人が語ってくれない限りコ・プロダクションは実現しません。では、本人から何を聞けば良いのでしょうか？単に、症状を話してもらうわけではありません。「話す」と「語る」は違います。本人が語ってくれる必要があります。

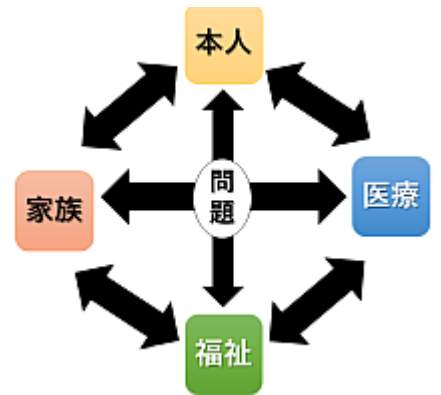


図2 コ・プロダクション

#### 対話・語りには、良い聞き手との出会いが必要

本人が語ってくれるためには、良い聞き手が必要です。次回から毎回1人ずつ、8人の当事者がここに来て、それぞれの「物語」を語ってくれます。それを聞いて、「いい先生や、支援者に出会って運が良かったんだわ」というような、表面的な受け取り方をしないようにして欲しいです。本気で聞いたときは、魂が動く、魂が揺さぶられる感覚になります。良い聞き手になる練習をして欲しいです。家族が良い聞き手となれば、本人が語り始め、うまくいかないことに対する様々な対処法を発見できるようになると思います。

最後に、小川 洋子、河合 隼雄著「生きるとは、自分の物語をつくること」(新潮文庫)を紹介します。作家と臨床心理士が「物語」の意義について対談しています。是非読んでください。(文責：事務局 広瀬)